



まもなく1学期の終業式を迎えます

令和3年度の新学期から、あっという間に半年が経ちました。10月は1年間の後半の振り返りになります。今年度も新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、緊急事態宣言が発令され、部活動の制限があったり様々な自粛が叫ばれている中でしたが、体育祭などの学校行事も無事に行うことができました。また、春・夏の大会での各部活動での大活躍もあり、生徒の皆さんの中にも様々な思い出ができたことと思います。2学期はさらに進級・進学を視野に、目標を持ち、充実した学校生活を送ってほしいと思います。

さて、8日は1学期の終業式になります。1年生は中学校で初めての通知表をもらうことになります。ドキドキ・ワクワクしながらその日を待っていることと思います。参考として、下に通知表の見方の一例を載せました。是非ご家族皆様でご覧いただき、1学期の振り返りをしつつ、2学期の目標を立てられるとよいと思います。



《通知表の見方》 通知表には、生徒の1学期の様々な学校生活の様子が記されています。

1 「各教科の学習の記録」

各教科で観点別にA・B・Cで表されており、それをもとに評価が5段階で表されています。特に今年度から、観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点になり、「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①『思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面』と、②『①の粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面』の二つの側面が評価されています。(裏面を参照してください。)

2 「行動の記録」

生徒の行動について各項目の趣旨に照らして、「十分に満足できる」場合は○がついています。

3 「特別活動の記録」「学習や生活の所見」

生徒の皆さんの学校生活での様子を記入しています。頑張った係や委員会の活動、学校行事や日々の学習・生活での努力など、話題にしてみてください。

《2学期に向けて目標を持とう》

ここでは特に、「主体的に学習に取り組む態度」について、生徒の皆さんが2学期にさらにがんばるためのポイント(考え方)の一例をご紹介します。

★「粘り強い取組」とは・・・

- ・前の授業時間のノートを見返している。(「前の時間はどうやって考えたかな?」)
- ・わかりやすくするために式に言葉や図で説明を書き加える。(「これで説明したらもっと分かりやすくなるかな?」)
- ・一つの方法で解決した後、別の方法での解決を試みる。(「別の方法でもできないか、試してみよう!」)

★「学習を調整しようとする」とは・・・

- ・うまくいかなかった解決方法を振り返り、それを修正したり別の方法を考えたりする。(「方法を変えたらできないかな・・・?」)
- ・自分の解いた方法を自己評価し、さらによいものを求めようとする。(「もうちょっと、ここを変えたらもっとわかりやすくなりそうだな。」)
- ・自分の解決した結果を友達に説明することを念頭に置いて、着想や説明を書き加えていく。(「これも書いておいたほうが説明しやすいかな。」)

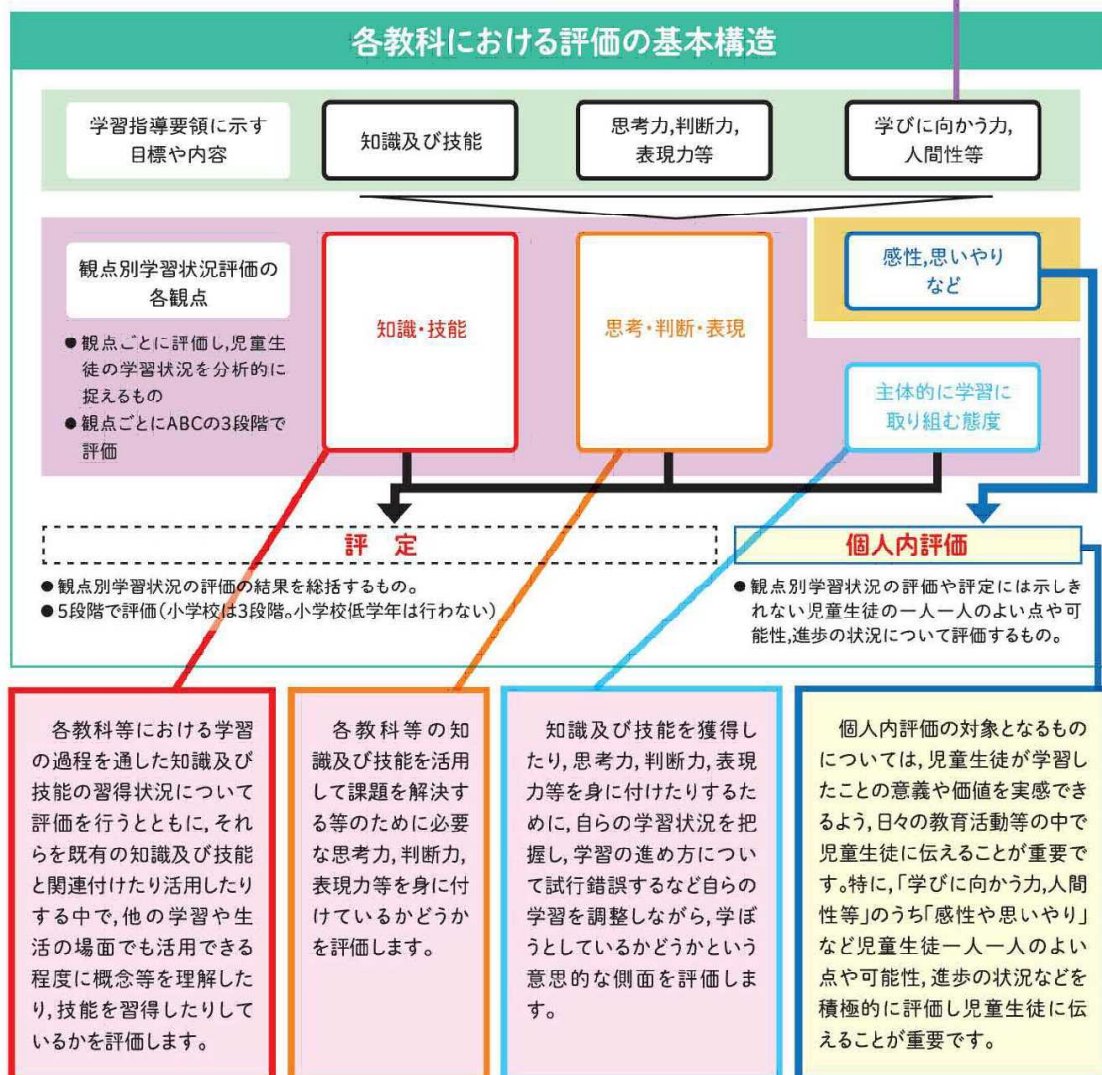
まずは、自分にもできそうなものから始めてみましょう。他の項目でも、BやCの評価だったところは、もっとできることはないか、秋休みのうちに振り返ってみましょう。

学習評価の基本構造

平成29年改訂で、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理されています。

「学びに向かう力、人間性等」には

- ①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができる部分と、
- ②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。



詳しくは、平成31年1月21日文科科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」をご覧ください。
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1412933.htm)

